

はじめに

前の計画期間中は、3年余りに渡る長いコロナ禍により、社会の様々な課題が一斉に顕在化しました。当たり前だと思われていた日常の在り方が大きく変わる中、人が人らしく生きていくためには、人の手による温もりあるつながりを欠かすことはできないことを強く感じています。

本市は依然として高齢化率が増加し、単身高齢者世帯も増加しています。さらに本計画の期間中には、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる令和7年を迎えることとなり、本市のみならず我が国全体でも、医療や介護の需要がますます増えることは必然となっています。

これら社会の変化に適切に対応するためには、「介護」「医療」「予防」「住まい」「生活支援」の5つの事項が、切れ目なく提供される地域包括ケアシステムが必要不可欠です。そして高齢者の誰もが、安心して住み慣れた地域で、尊厳ある暮らしを継続していくことができるようにするためには、今後もこのシステムを、より一層強化していく必要があります。併せて介護保険制度によるサービスや行政が行う福祉サービスだけでなく、住民同士の助け合いや地域の関係団体による福祉の促進、専門職同士の連携も非常に重要です。今まさに、福祉のためにご尽力されている全ての方々へのサポートは、行政における重要な役目の一つだと考えています。

現在、複雑化したニーズへ対応するため、重層的支援体制整備事業の事業化に向けた検討を進めており、必要な支援が届いていない高齢者等への支援や、地域での居場所づくりと、本市とのつながりの形成に向け、取り組みを進めています。

このような中、この度、令和6年度から令和8年度までの3年間を計画期間とした「横須賀市高齢者保健福祉計画（第9期介護保険事業計画を含む）」を策定いたしました。

今後はこの計画に基づき、「いくつになっても誰もが自分らしく幸せに生きられるまち」に向け、様々な施策を実施してまいります。それがすなわち、本市の目指す「誰も一人にさせないまち」の実現につながるものと確信しております。

市民の皆様や、計画の推進にかかわるすべての方々におかれましては、計画の趣旨をご理解いただくとともに、その推進についてご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました横須賀市社会福祉審議会の委員の皆様をはじめ、アンケートやパブリック・コメント手続きなどにご協力いただきました多くの皆様に、心からの御礼を申し上げます。

令和6年（2024年）2月

横須賀市長

上地克明